

平成29年度

登録左官基幹技能者認定試験問題（60分）

北陸ブロック

受講番号		氏名	
------	--	----	--

1. 試験時間 60分
2. 問題数 25題（四肢択一法）
3. 注意事項
 - (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子はあけないでください。
 - (2) 受講番号と氏名は、問題用紙および解答用紙のそれぞれの所定の欄に必ず記入してください。
 - (3) 本冊子は、表紙を含めて10頁です。次に、問題数を確かめてください。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合には、黙って手を上げて申し出てください。
 - (4) 試験開始の合図で始めてください。
 - (5) 解答の方法は、次のとおりです。
 - ①正解と思うものを、1～4の番号の中から1つだけ選んで、解答用紙の解答欄にその番号を、黒の鉛筆またはシャープペンシルで記入してください。
 - ②解答を訂正する場合は、訂正する解答を、プラスチック消しゴムできれいに消した後、新しい解答を記入してください。
消し方が不十分な場合は、2つ以上解答したこととなり正解としません。
 - ③受験番号および選択した番号を正しく記入していないものは、採点せず全問題を0点とすることがあります。
 - (6) 電子式卓上計算機、携帯電話の計算機能その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
 - (7) 試験中、質問があるときは黙って手を上げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
 - (8) 答案ができあがったら、監督者の指示に従って提出してください。ただし、試験開始30分以内の場合は、退出できないので、静かに着席しててください。

一般社団法人 日本左官業組合連合会

以下の問題をよく読み、解答用紙に正解番号を記入しなさい。

問題 1 登録基幹技能者に期待されている仕事の内容に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 登録基幹技能者は、熟達した作業能力と豊富な知識を持つとともに、現場をまとめ、効率的に作業を進めるためのマネジメント能力に優れた技能者である。
2. 登録基幹技能者は、国土交通大臣が登録した機関の資格認定を受けた者である。
3. 登録基幹技能者は、現場では、いわゆる親方として活躍している。
4. 登録基幹技能者は、元請の計画・管理業務に参画し、補佐することが期待されている。

問題 2 登録左官基幹技能者に必要な資格等の要件等に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 国土交通大臣が登録した機関が実施する登録基幹技能者講習の修了者は、登録基幹技能者として認められる。
2. 5年以上の実務経験（該当する職種）が必要である。
3. 職長経験年数は、実務経験のうち3年以上（団体が個別に認定）が必要である。
4. 実施機関において定めている資格等の保有（1級技能士、施工管理技士等）が必要である。

問題 3 登録基幹技能者の確保・育成の意義に関して、品確法の改正ポイント／目的及び基本理念に追加された事項について、最も不適当なものはどれか。

1. 品確法の目的は、過去の公共工事の品質を見直すことである。
2. 品確法の目的は、公共工事の品質確保の担い手の中長期的な確保・育成の促進を行うことである。
3. 品確法の基本理念は、施工技術の維持向上とそれを有する者の中長期的な確保・育成を行うことである。
4. 品確法の基本理念は、災害対応を含む地域維持の担い手確保への配慮を行うことである。

問題4 職種ごとに技能者のレベルを4段階に分類したの**ん**に関して、**最も不適当なもの**はどれか。

1. レベル1 見習い技能者（0～3年）
2. レベル2 中級技能者（4年～10年）
3. レベル3 職長（5年～15年）
4. レベル4 熟練技能者（10年～15年以上）

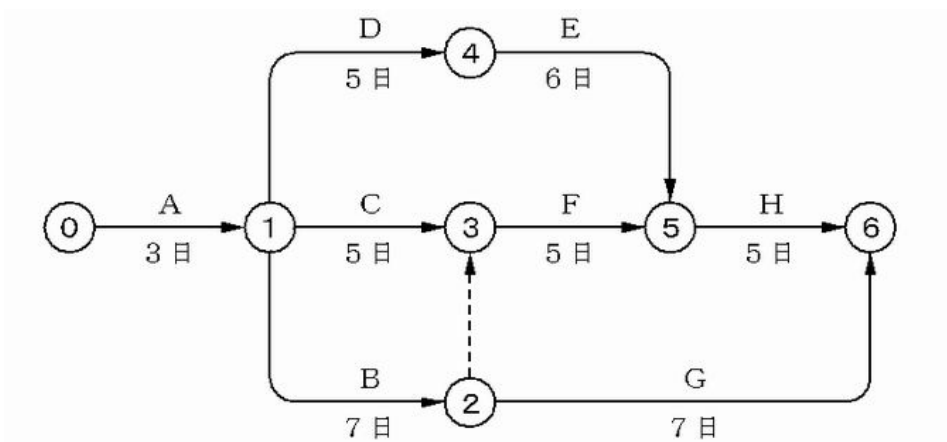
問題5 人として守り行うべき道であり、行為の善悪、正邪の判断において普遍的な基準となる「倫理」に関して、**最も不適当なもの**はどれか。

1. コンクリートのスランプが小さく打設しにくい**ん**ため、作業員から柔らかくするように要求されたのでコンクリートに加水させた。
2. 自身の経験からして明らかにセメント量が少ないので改善させた。
3. スラブにコンクリートを打設しようとしているが、自身の経験からして明らかにサポートの数が少ないので支保工の計算をし直した。
4. 足場を組み立てたが適切な転倒防止措置がとられていないので適切な措置を講じた。

問題6 指導で部下の能力等を向上させる基本的な手法に関して、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 教える
2. やってみせる
3. 観察する
4. 修正する

問題7 下図の工程表に関して、最も不適当なものはどれか。



1. この現場の工期は、20日である。
2. クリティカルパスは、A→C→F→Hである。
3. Cの作業の最早開始時刻は3日である。
4. 作業②→③の点矢線は、ダミーであり作業日数は0である。

問題8 労働安全衛生法で定められている、作業員が守らなければならない主要な義務に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 安全状態を保つ義務
2. 安全措置を免じる義務
3. 保護具の着用・使用義務
4. 危機行動の禁止義務

問題9 建設業法における専門工事業の許可のある29業種に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 左官工事
2. タイル・れんが・ブロック工事
3. 板金工事
4. 掘削工事

問題 10 ブレーンストーミング(BS)に関して、最も不適当なものはどれか。

1. BSは、5～7人程度の少人数の集団で、ある人の意見やアイデアに関して他の人たちが連鎖反応を示し、多彩・豊富・独創的な考え方を引き出す働きがある。
2. BSのルールでは、他人の意見を批判しない、量を出すことが優先されることから、安心して誰もが自由にアイデアを述べることができる。
3. BSのメンバーは、専門家、他分野の専門家、ゼネラリスト等で構成することが望ましい。
4. BSにおけるアイデアや意見に関する連鎖反応は、チームメンバー同士の嫉妬や辛みを生み出すことにつながっている。


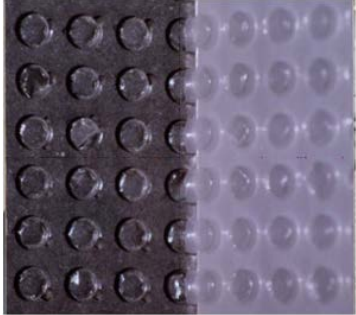
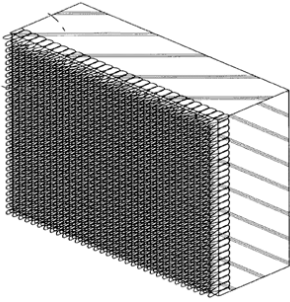

問題 11 現場打ちコンクリート下地に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 開口部、ひび割れ誘発目地、構造スリットなどの位置や形状について施工図との適合性を確認する。
2. 型枠は完全に取り外された状態であり、せき板の残材や過度のはく離剤付着などの接着上有害な残存物のない状態とすること。
3. コンクリートは、ひび割れ・ジャンカ・過度の凹凸などが、適切に補修されている状態とすること。
4. 下塗りに先立ち、コンクリートが、ひび割れ・ジャンカ・過度の凹凸などがある場合は、監理者に報告し、是正作業に取かかる。

問題 12 左官下地での条件に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 左官の下地は、仕上げ材料よりも強度・剛性が小さいこと。
2. 左官の下地は、仕上げ材料と有効な付着強度が得られるものであること。
3. 左官の下地は、仕上げ材料と有害な化学反応を生じないこと。
4. 左官の下地は、仕上げ材料の施工に適した平面状態、吸水性を有すること。

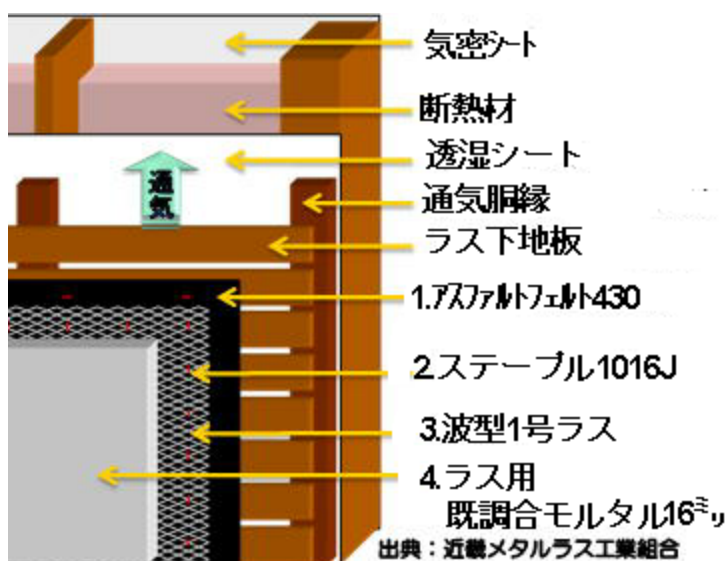
問題 13 コンクリート表面の処理後の表面状態と処理方法に関して最も不適当なものはどれか。

1.	<p>高圧水洗浄の例（吐出圧 50N/mm²）</p>	
2.	<p>専用シートによる凹凸処理</p>	
3.	<p>専用シートによる起毛処理</p>	
4.	<p>カップサンダー掛け</p>	

問題 1 4 JIS A 6909（建築用仕上塗材）の仕上塗材の種類と呼び名の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 内装消石灰・ドロマイトプラスター系薄付け仕上塗材 — 内装薄塗材C
2. 内装せっこう系厚付け仕上塗材 — 内装厚塗材G
3. 外装合成樹脂エマルジョン系薄付け仕上塗材 — 外装薄塗材E
4. 内装水溶性樹脂系薄付け仕上塗材 — 内装薄塗材W

問題 1 5 二層下地通気構法を示す図で、最も不適当なものはどれか。



1. アスファルトフェルト 430
2. ステーブル 1016J
3. 波型 1 号ラス
4. 既調合モルタル 16 ㊦

問題 1 6 左官用語の解説に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 防水モルタルの施工は、主として左官事業者が行う。
2. ドライアウトとは、モルタルが水和反応を完了するために必要な水分が下地に吸収されて不足し、完全硬化できない状態になることである。
3. ブリージングとは、シーリングの上に塗装をした場合にその部分だけが黒く滲（にじ）んでくる現象である。
4. グラウトとはひび割れ部にセメントペースト等の結合材を注入すること。

問題 17 左官に関する記載で、最も不適当なものはどれか。

1. 左官工事は、可塑性のある材料を現場において使用し、所定の場所に必要な厚さに塗り、あるいは吹付ける工法のことである。
2. 左官工事は、美観の付与や防水または漏水防止がある。
3. 塗り壁の特徴と性能は、どのような複雑な形状でも自由に形成することができる。
4. 塗り壁の特徴と性能とし、理論上でも広い面積では、継目ができてしまう。

問題 18 左官工事に要求される品質に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 真壁では、ちりがそろっていること。
2. 色調が全壁面に関して一様であること。
3. 設計上要求される耐火、防水、遮音、吸音、断熱、湿温調節などの性能を備えていること。
4. 壁面強度はなるべく高くする。

問題 19 施工計画での基本計画に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 全体工期、全体工費に及ぼす影響の小さい工程を優先して考える。
2. 現場の制約等を考慮して資機材、労働力などの円滑な回転を図る。
3. 全体のバランスを考え、作業の過度な集中は避ける。
4. 繰り返し作業により習熟を図り、効率を高める。

問題 20 製作品の発注プロセスにおける、メーカーとの製作打合せ事項に関して、最も不適当なものはどれか。

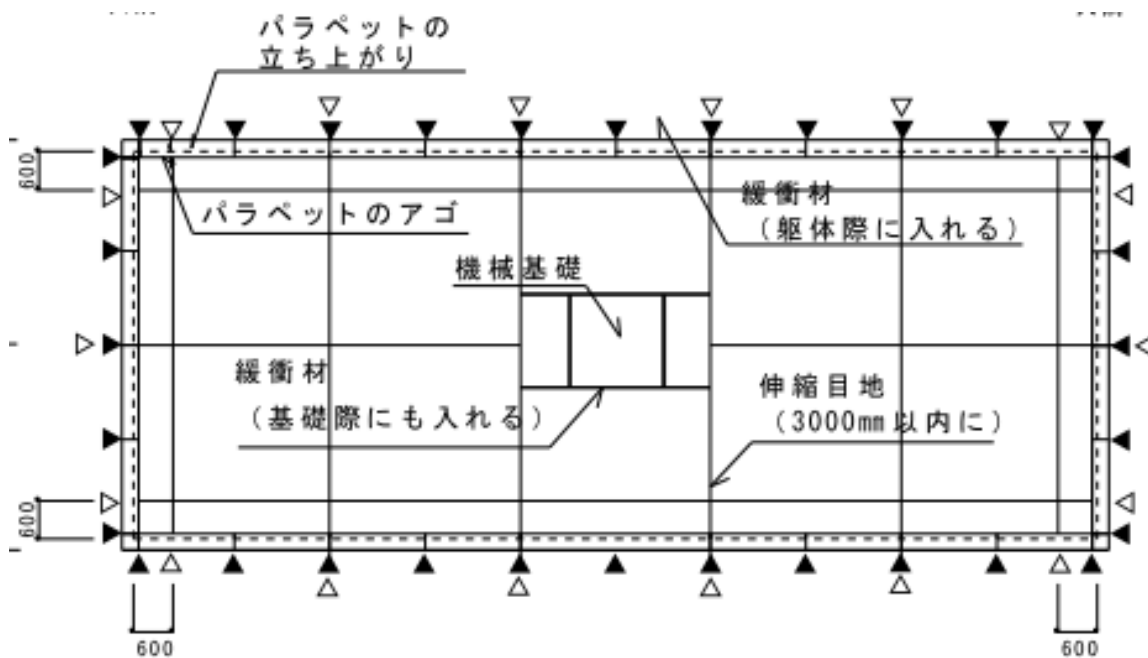
1. 製品の仕様及び機能。
2. 製品の価格。
3. 製作必要期間。
4. 工場立会検査予定日及び搬入時期。

問題 2 1 原価管理における実行予算に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 各種の具体的な施工計画を立て、その工事を実行するのに必要な費用をできるだけ精密に予測・算出したもの。
2. 通常は工事が着手する前に、見積もり業務を行った部署で作成する。
3. 実行予算は、施工計画と一体となって作成する必要がある。
4. 積算段階での標準的な工種別に作成するのではなく、工程ごと、作業ごとに分類し、発注先ごとにとりまとめる。

問題 2 2 下図のような屋上パラペットの誘発目地及び屋上保護コンクリートの伸縮目地の施工に関して、最も不適当なものはどれか。

1. パラペットから最も近い伸縮目地は、全体の割り付けに関係なく 600 mm 程度の位置が望ましい。
2. パラペットの立ち上がりには、全て緩衝材を入れ、コンクリートの伸縮に追従させる。
3. 屋上のパラペットは、外気温の影響を受けやすく、伸縮クラックが発生しやすい。
4. 機械基礎の周辺は基礎際に緩衝材を入れ、600 mm 程度離して伸縮目地を配置する。



問題 2 3 わが国建設業における労働災害の現状について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1. 労働災害とは、労働者が就業中や通勤途上などで負傷、疾病、障害、死亡する災害である。
2. 近年の労働災害減少の主要因は、工事量の減少である。
3. 死亡災害を事故の型別で見ると、建設工事全体では墜落事故が約 40%と最も多い。
4. 建設業の安全対策が難しい理由の一つは、作業内容が日々変化するため慣れによる安全効果が期待しにくいことが挙げられる。

問題 2 4 各種労働災害防止について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1. 高さが 2m 以上の所での作業を行う場合、基本的には作業床を設置する。
2. リフォーム工事では、既存建物、植栽、側溝等、足場の支障になるものが多く存在するので事前の現地調査が必要である。
3. 解体工事は短期間で終わるので、石綿による健康障害防止対策を考える必要はない。
4. 熱中症予防対策として、WBGT（暑さ指数）を測定することは有効である。

問題 2 5 法で定められた建設現場における安全管理について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1. 複数業者が混在する 60 人の建設現場では、安全管理のために元請業者は統括安全衛生責任者を選任する必要がある。
2. 作業主任者を選任しなければならない作業の中に、型枠支保工の解体は含まれる。
3. 現場では、整理、整頓、清潔、清掃の「4S」に努めなければならない。
4. 元請業者は、現場で新たに就労する作業員に対し特に特別な新規入場者教育を行う必要はない。